

JRAT 活動報告書

平成 30 年 9 月 12 日

都道府県	千葉県	報告者	後藤達也	
団体名称／ 参加団体	千葉県災害リハビリテーション支援関連団体協議会 C-RAT			
実施内容	<input type="checkbox"/> 組織化・連携の 動き	<input type="checkbox"/> 研修会実施	<input checked="" type="checkbox"/> 訓練等実施	<input type="checkbox"/> その他
実施日	平成 30 年 8 月 26 日	実施場所	勝浦市立勝浦中学校	
概要	<p>第 39 回九都県市合同防災訓練（千葉県会場） 参加報告書</p> <p>1. 防災訓練目的（第 39 回九都県市合同防災訓練 実施計画書より）</p> <p>本訓練は、震災時における県や市、各防災機関の連携強化を図るため実践的な訓練を実施するとともに、自主防災組織を中心とした避難所の運営や防災啓発等を通じて減災への備えや発災時の対応などを学習し、自助の徹底や共助の充実、公助の連携強化による地域防災力の向上を図ることを目的とする。</p> <p>2. 本訓練における C-RAT の目的</p> <ul style="list-style-type: none">・ 避難所運営訓練では地元の自主防災組織に対し、避難所運営に関してリハの視点を入れた環境改善等を通じて生活不活発病などを予防できる、要配慮者の生活を支援できる、などの点について気づきを促す・ 防災フェアでは一般見学者や防災関係団体に対して、広く災害リハのことを啓蒙する・ 開催地域からのスタッフ参加を促し、地域の災害リハに関わる関係者の横の繋がりを築く <p>3. 訓練概要</p> <p>(1) 実施日時：平成 30 年 8 月 26 日（日）10:00-13:00</p> <p>(2) 実施場所：勝浦市立勝浦中学校ほか</p> <p>(3) 訓練規模：参加機関は約 110 機関、参加人員は約 5,000 名</p> <p>(4) 訓練想定：相模トラフ沿いを震源とする M8 クラス大地震により、勝浦市は震度 6 強で傾斜地は土砂崩れ、沿岸部は津波被害あり。</p> <p>(5) 訓練項目：以下を同時並行で実施し、C-RAT は下線部の項目に対して参加した</p> <ul style="list-style-type: none">・ 実動訓練：ヘリやオートバイによる情報収集などの初期活動、道路啓開、救出救助、トリアージなどの医療救護、ライフライン復旧や物資搬送などの生活支援・ <u>避難所運営訓練</u>：自主防災組織を中心として避難所の運営・ ボランティアセンター運営訓練：被災地における災害ボランティアセンター運営・支援・ 多数遺体取扱訓練：遺体安置所の設営や検死・検案、身元確認及び遺族対応（別市で実施）・ <u>防災フェア</u>：防災に関する展示や実験・体験学習など			

4. C-RAT 参加スタッフ：計 29 名。内訳は以下。
- ・ 職種別内訳は、医師:1 名、ケアマネ:2 名、PT:13 名、OT:7 名、ST:5 名、事務:1 名、計 29 名。
 - ・ 構成団体別内訳は、C-RAT 会長 1 名、県介護支援専門員協議会 2 名、県理学療法士会 6 名、県作業療法士会 5 名、県言語聴覚士会 4 名、広域支援センター1 名、広域支援センター協力施設 6 名、C-RAT 事務局 4 名、計 29 名（地域の災害リハの横の繋がりを築くという目的より、C-RAT 幹事・構成団体の他に、訓練開催地域の地域リハ関係団体より参加を募った）。
 - ・ 参加スタッフとしては上記の通りだが、各構成団体より見学者としての参加も多かった。

5. C-RAT 実施内容

C-RAT は数種類ある訓練項目のうち、避難所運営訓練と防災フェアに参加した。

「避難所運営訓練」は、地元の自主防災組織を避難所運営における各活動班として役割分担し、避難所内で発生する業務を広く認識して貰う研修要素の強い訓練として企画された。C-RAT が介入したのは上記活動班のうち総務班と救護班であり、総務班では情報保障や要配慮者の受け入れ等でアドバイスをを行い、救護班では要配慮者のためのスペース設営や実際の患者役の受け入れ方のアドバイス等を行った。

「防災フェア」では体育館内にブース出展し、以下の項目について啓発した。

1. PT によるブース

- ①排泄に関する提案 ②DVT 予防 ③自宅でのベッド周り等の動線の確保
- ④基本的な床からの立ち上がりと介助の方法

2. OT によるブース

- ①自助具の展示：道具の工夫による自立支援、生活不活発病予防、主体性向上などアピール
- ②要配慮者に対する支援方法をパネル展示：障害特性や情報の伝え方、支援のポイントなど

3. ST によるブース

- ①非常用の嚥下食（おかゆ）を食べて ②トロミ付きの飲み物を飲み
- ③口腔ケア用ウェットティッシュで拭いてもらい
- ④嚥下障害や誤嚥性肺炎について理解してもらう

所感

- ・ 県知事に直接 C-RAT の活動を説明することができ、貴重なアピールの場になった。
- ・ 一般見学者や他支援団体に対して、災害リハの啓発の場になり、当初の目的を達成できた。
- ・ スタッフに対して、C-RAT の取組みを実地で理解してもらい、顔の見える関係作りに寄与する良い場になった。
- ・ 本訓練は今回で 3 回目であったが、スタッフ希望のリハ職が非常に多くなり、一部は断ることになってしまった。辞退してもらった方も一般見学者という形で本訓練に参加し、災害や災害リハに対する意識が高まってきていることが実感された。

今後の課題

- ・ 危機管理課のみならず、医療整備課との連携を強化する。
危機管理課は災害対策全般を管轄する部署であり、災害医療としての災害リハが円滑に活動するためにはその主管課である医療整備課との連携を今後密にすべきと考える。



避難所運営訓練での設営の様子



避難所運営訓練 要配慮者への対応アドバイス



避難所運営訓練 要配慮者への対応アドバイス



防災フェアC-RATブース全景



防災フェア PTによる説明



防災フェア サージカルストッキングの体験



防災フェア メディアへの取材対応



防災フェア 自助具等の説明



防災フェア 嚥下食等の試食



防災フェア 嚥下食等の他団体への啓発



県知事に対して C-RAT 会長から災害リハの説明



C-RAT メンバー集合写真